

具体的な対応事例（港湾施設、ゴルフ場等におけるアフリカ豚熱対策）

○港湾施設

港湾関係者やフェリー会社に対し、以下の取組について協力要請。

- ・ **韓国での乗船前の車両洗浄の実施**
- ・ 韓国乗船手続き場でのポスター、リーフレット掲示による注意喚起
- ・ 船内アナウンス、ポスター掲示による注意喚起
- ・ **日本到着後の車両、靴底等の消毒の実施**



○ゴルフ場等

ゴルフ場や旅館等に対し、以下の取組について協力するよう関係団体を通じて要請。

- ・ 靴底等の洗浄・消毒、海空港における携帯品検査についての**ウェブサイトや予約の際の事前周知**
- ・ 利用旅客に対するリーフレットの配布
- ・ ゴルフ場・宿泊施設の施設内における**動物検疫にかかるポスターの掲示**
- ・ ゴルフ場・宿泊施設利用前後の**靴底等の洗浄・消毒の実施**

< 掲示用のポスター >



< ゴルフ用品の把握 >



< 個別の聞き取り >



< 旅客のゴルフシューズの消毒 >



(1) 原因 (病原体)

口蹄疫ウイルス (Foot-and-mouth disease virus)

(2) 対象家畜

牛、豚、めん羊、山羊、水牛、鹿、いのしし

(3) 症状・特徴

口や蹄に水疱形成^{すいほう}、発熱、流涎^{りゅうぜん}（よだれを垂らす。）等の症状を示す。極めて感染力が強く、幼獣では高い致死率を示す。成長した家畜の死亡率は低いものの、発病後の発育障害等により、産業動物としての価値が失われる。

(4) 発生状況

中国等の近隣アジア諸国で継続的に発生しており、日本では2010年に宮崎県で10年ぶりに発生したが、翌年2011年には清浄国に復帰している。

～牛の症状～



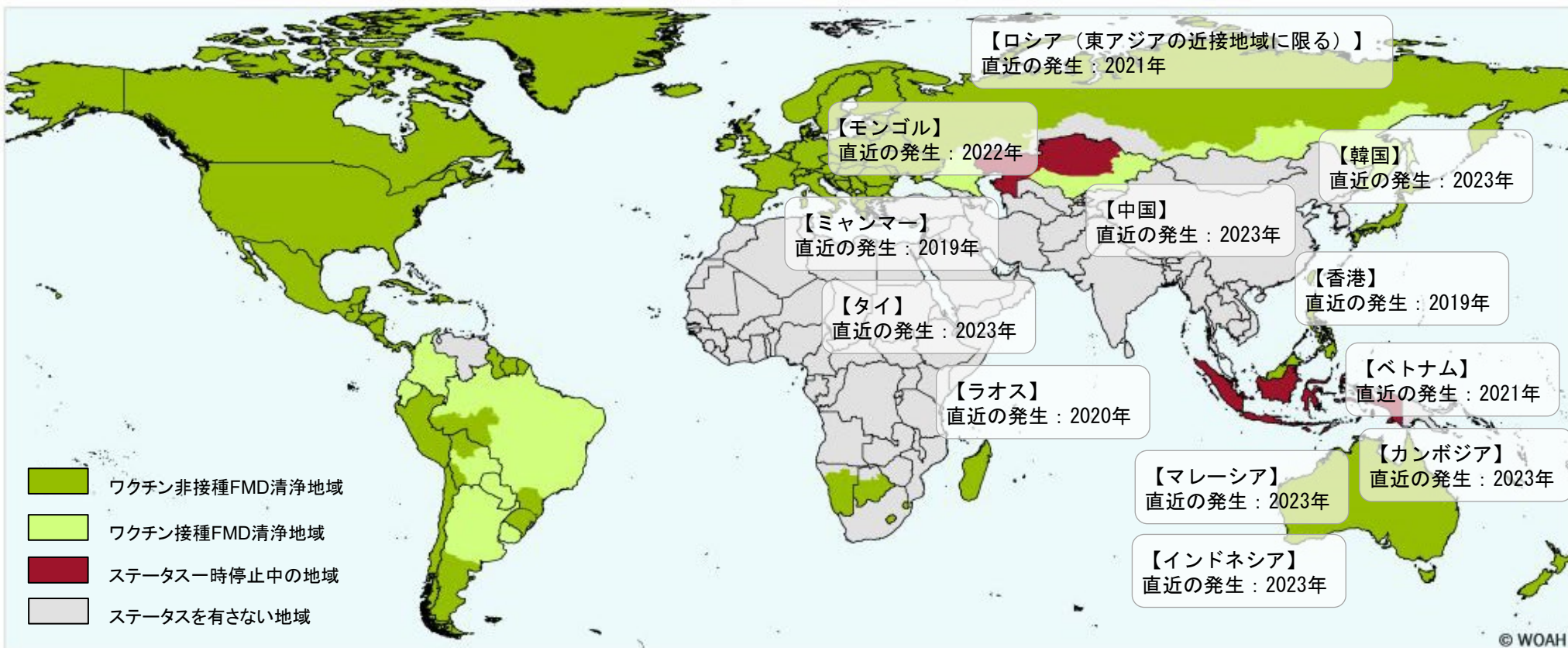
～豚の症状～



近隣アジア諸国を中心とした海外における口蹄疫の発生状況

- 日本では2010年に宮崎県で10年ぶりに発生したが、翌年2011年には清浄国に復帰。
- 中国、韓国等のアジア近隣諸国で継続的に発生しており、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の位置付け緩和により人や物を介した我が国への侵入リスクは極めて高い状況。
- 侵入防止措置として、検疫探知犬の増頭、郵便物への検疫強化、ならびに家畜伝染病予防法の改正による違反者への罰則強化により水際検疫体制を強化。

口蹄疫（FMD）のWOAHステータス認定状況及び近隣諸国での近年の発生状況



牛疫とは

- (1) 原因：牛疫ウイルス
- (2) 感受性動物：牛、めん羊、山羊、豚、水牛、鹿、いのしし
- (3) 分布：日本での最終発生は大正11年（1922年）。
平成23年5月25日にフランス・パリで開かれた
第79回国際獣疫事務局 (WOAH) 総会で牛疫撲滅宣言
がだされた。
- (4) 症状：熱、鼻汁、流涙、口またはその周辺の糜爛。
下痢→脱水→体温下降→死亡の経過をとる。



【口内に見られる糜爛(びらん)】
(出典：動物衛生研究部門)

牛肺疫とは

- (1) 原因：牛肺疫マイコプラズマ（細菌の一種）
- (2) 感受性動物：牛、水牛、鹿
- (3) 分布：日本での最終発生は最終発生は昭和16年（1941年）。
世界中で発生が見られるが、西・中央アフリカで特に多い。
- (4) 症状：初期には発熱および呼吸が速くなり、
進行期には高熱、せき、呼吸困難を示す。
乳牛では泌乳停止に至る。



【呼吸不全に伴う頭頸の伸張姿勢】
(出典：動物衛生研究部門)

海外における牛疫の発生報告状況

2015年6月17日現在

2011年6月25日から7月2日に開催された国連食糧農業機構(FAO)第37回総会にて牛疫撲滅宣言がなされた

1980年～1989年に 最終発生があった国

バーレーン	1980年	ニジェール	1986年
レバノン	1982年	カメルーン	1986年
シリア	1983年	コートジボワール	1986年
中央アフリカ共和国	1983年	トーゴ	1986年
ソマリア	1983年	マリ	1986年
イスラエル	1983年	エジプト	1986年
チャド	1983年	ベナン	1987年
パレスチナ自治区	1983年	ナイジェリア	1987年
クウェート	1985年	カタール	1987年
ジブチ	1985年	ブルキナファソ	1988年6月
モーリタニア	1986年	ガーナ	1988年8月
		グルジア	1989年

1990年以降に 最終発生があった国

ネパール	1990年	アフガニスタン	1995年10月
モンゴル	1992年	エチオピア	1995年12月
イラン	1994年	イラク	1996年
スリランカ	1994年3月	トルコ	1996年1月
ウガンダ	1994年7月	タンザニア	1997年
インド	1995年	ロシア	1998年
イエメン	1995年	南スーダン	1998年
エリトリア	1995年1月	スーダン	1998年8月
オマーン	1995年1月	サウジアラビア	1999年
アラブ首長国連邦	1995年6月	パキスタン	2000年9月
		ケニア	2001年10月

※1 WOAHPへの最終発生報告は、2001年 ケニアにおける発生事例。

※2 日本の最終発生報告は1922年。

出典: WOAHP World Animal Health Information Database